

中国留学体験レポート

国際学部国際文化学科 2年

21018039 齋藤琴音

今回の北京留学体験の中で、人生で初めての経験を沢山することができました。今留学を振り返ってみても本当に充実した、内容の濃い4か月間だったと思います。

基本的全ての状況において中国語しか通じないため、初めの一か月間は何をするにしても緊張感を持ちながらコミュニケーションを取っていました。授業も全て中国語で行われ、実際に使用するテキストも中国語と英語しか記載がないので、毎日の予習・復習が欠かせません。予習をしっかりして臨んでも授業中に先生が使ったり書いたりした単語の中で分からないものが出てくるので、その場ですぐに調べるようにしていました。その甲斐あって、帰国までには使える中国語の単語数が以前よりも格段に増えていたように感じます。毎日授業を受けているとだんだん先生の話している内容がその場ですぐ理解できるようになりました。日本で授業を受けていた時よりもリスニング力が本当に上達したと思います。

食べ物に関しては、学内にも食堂がいくつかあって、少し外に出ると美味しいご飯が食べられるお店が沢山あるので、困ることはありませんでした。最初のころは手探りで新しい食べ物に挑戦していましたが、慣れてくると気に入ったお店やメニューを見つけることができます。クラスメイトやルームメイトに美味しいお店を教えてもらうこともありました。

留学生活折り返しの時期には公共交通機関を利用する機会も増え、バスや地下鉄、タクシーを利用して街に出かけることも多くなりました。タクシーを利用する際は目的地の伝達や値段交渉などで中国語を用いる機会が多々あったのでそれもまたスキルアップに繋がったように感じます。大学付近から少し離れた場所に行くだけでも全く違った中国を知ることができ、毎回発見の連続でした。買い物をする際は、中国では今現金を使う文化が少なく、スマートフォンで決済します。これが思っていたよりも便利で、友達と割り勘をしたい、といった時もすぐに送金することができます。日本に帰国した時、現金を使うのが少し面倒に感じてしまいました。

四か月間で中国語の上達はもちろん、視野の広さが大きく変化したように感じます。クラスメイトの外国人や黄山文化考察で仲良くなった中国人達と話をする中で、中国とはどんな国かを考えるだけでなく、自分の国はどう見られているか、ということを知るきっかけにもなりました。また、日本人以外の人たちと交流を深めていく中ではカードゲームやジェスチャーゲームなどをする機会が多々ありました。初めてプレイするゲームがあったり、国によってルールが違っていたりしたのがとても興味深かったです。

留学中に学んだ全ての事が私自身の大きな成長に繋がりました。今後も中国語の勉強に励み、留学中に得たスキルをもっと伸ばしていきたいです。